

コンセプト

- ・団塊世代の方の退職後は、きっと、こんな空間を欲しておられるんだろうというもの、を、また、今後の生き方としてクライアントが望んでおられる「スローライフ」と「賑やかライフ」、この2つを体感・体験していただくために『孤楽室』、『互楽室』と称する空間を作りました。
- ・2つは、平面図的には殆ど同じように見えますが、テーブル(H700)とベンチ(H400)を、それぞれ逆に周辺配置と中央配置にチェンジしたものです。

クライアント属性

職業

- ・退職直後の団塊世代の男性(65歳)。

家族構成

- ・本人と妻(60歳)の二人暮らし。
- ・30歳代の二人の息子は既に結婚独立。両方にそれぞれ幼児(孫)が一人ずつ。

生活スタイル

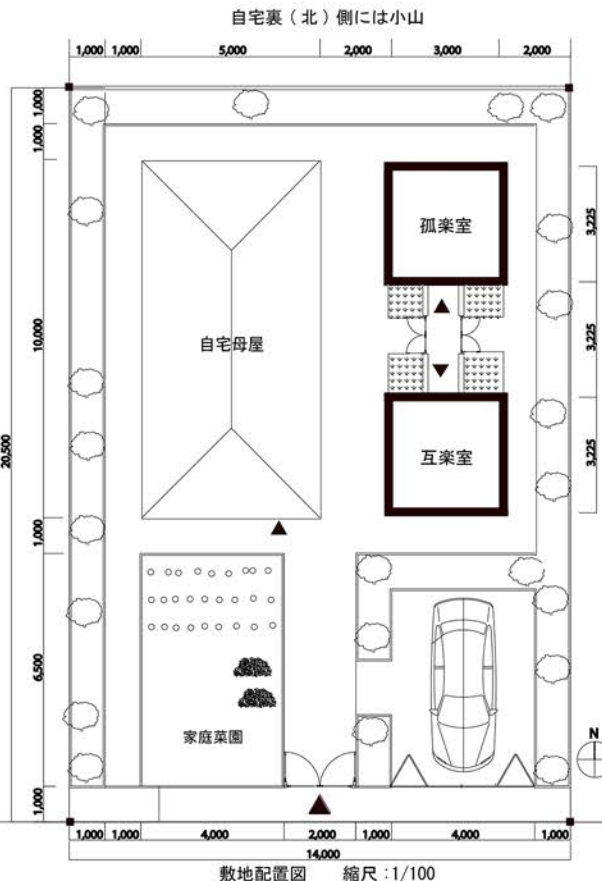
- ・夫婦とも仕事は持たず、広い敷地内の一戸建て住宅にて年金生活をスタート。
- ・妻は、地域での自治会・ボランティア活動、またカルチャーセンター通いに熱心であり、外出も頻繁。本人は、独り在宅或いは自宅周辺を散歩ということが多い。

要望等

- ・在職中は多忙を極める日々。今後は、ゆったりとした「スローライフ」な生活を、また、退職後の寂しさを埋める近所の方々との新しいお付き合いもある「賑やかライフ」の両方を望んでいる。そんな望みを空間として創って欲しい。
- ・好きなインテリアイストは、「シンプル」。茶系のナチュラルな空間は気分も落ち着き、人との交流の場は年齢に似合わず、無彩色のモダンテイストが好き。

団塊退職爺

の愉快空間



自宅敷地の裏山



家庭菜園の葱



自宅前(南側)の道路

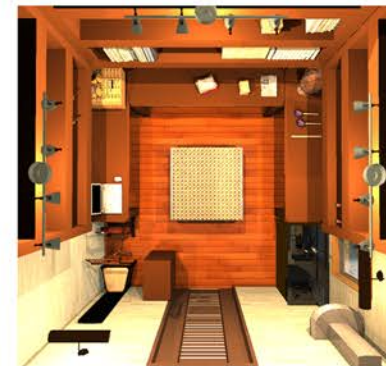
立地地域は首都圏に位置するが、クライアントの勤務地であった東京中心部からは電車、バスで1.5時間余りの神奈川県中部である。自宅では家庭菜園もなされ、近くには小川も流れている。自宅の南面は6m道路、裏(北側)は山に面している。今回の空間は、自宅敷地内での離れのような趣として創られるものである。



孤楽

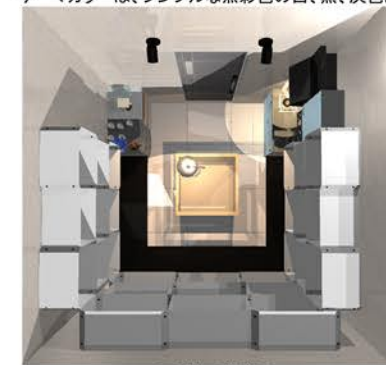
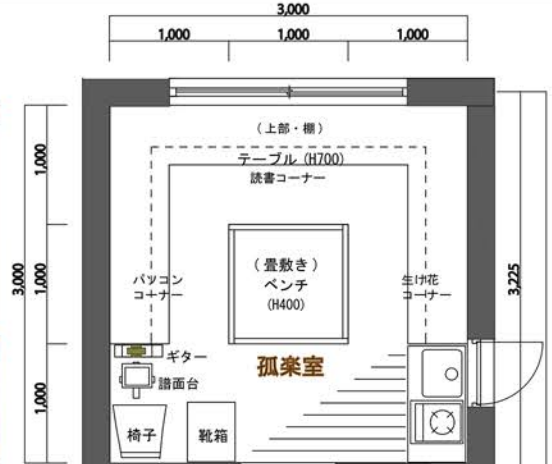
と

互楽



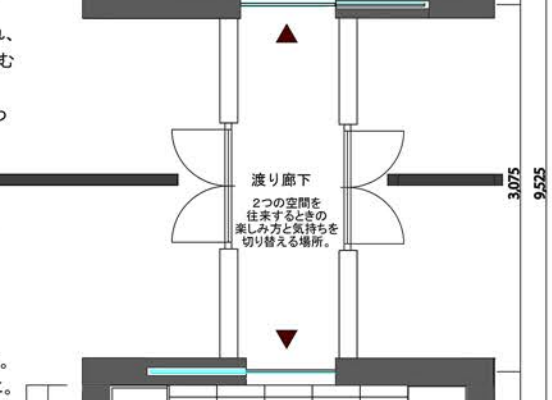
孤楽室 俯瞰図

- ・『孤楽室』は、これまでの人生の写真集、書籍、好きなモノに囲まれ、読書、パソコン、ギター、生け花等の趣味を独り楽しむ自然木を多用した空間。
- ・テーマカラーは、クライアントが気分が落ち着くといわれるナチュラルブラウンに。

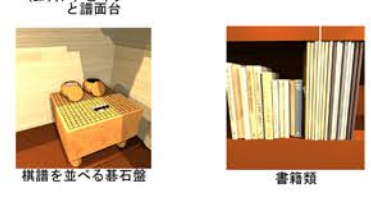
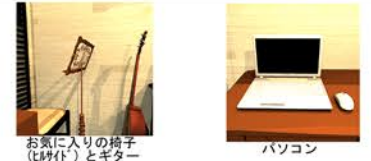


互楽室 俯瞰図

- ・『互楽室』は、ご近所の団塊世代の人達と、毎晩の晩酌を一緒に楽しむことができる空間とする。
- ・各自持ち込みのボトル、一升瓶などをキープできる収納棚を多数用意。(つまみは当日、各自持ち寄る。)
- ・夜は酒、昼はコーヒーで 団塊親爺たちが交流を楽しむ、磁器系タイルを多用した洒落た憩いの空間。
- ・テーマカラーは、シンプルな無彩色の白、黒、灰色に。



平面図 縮尺:1/30



インテリアエレメントリスト

	孤楽室	互楽室
床	フローリング ビーチ材 1000x570	ステアタイト(滑石磁器) 素地質タイル・施釉 400x400
壁	木質壁(ナラ) 1200x900 耐水P.B t=12.5下地	タイル壁 300x300 耐水P.B t=12.5下地
天井	竹製 網代天井 200x200 P.B t=9.5下地	岩綿吸音板 800x800 P.B t=9.5下地
主照明	シーリング スポットライト 蛍光灯ブラケット	LEDダウンライト クリップ スポットライト

延床面積	18㎡ (5.43坪)
坪単価	60万円
概算予算	325.8万円